

僕と広めませんか

松江市立美保関中学校 二年 井下成親

「共通言語は何か」と聞かれたら、たいていの人が英語と答えるのではないのでしょうか。世界で英語を使う人口が多いという理由から、英語が共通言語となっていて、必然的に僕たちは英語を勉強しています。英語の話せる人が、日本と諸外国の橋渡しをしてくれるおかげで、僕たちの暮らしが成り立っているのも事実です。だから、英語のできる人を尊敬するし、感謝もする一方で、英語が苦手な僕は、必要なことはだいたいAIが訳してくれるのだから大人になって使う日が来るのだろうかという疑問に思うこともあります。

そんなある日、僕は下校バスで外国人観光客と乗り合わせました。僕は英語ができないけれど勇気を出して声をかけました。すると、外国の人は通訳機を使って僕と話してくれたのです。それは自宅まで十分間くらい続きました。短い時間でしたが僕にとってそれは大きな出来事でした。母に話すと、「その人を知ろう、知りたいという行動をしたことがえらい」とほめてくれました。

僕にとっては、共通語が英語であるように、この先、誰にも知ってほしい言語があります。それは、聴覚障がい者の共通言語、つまり手話です。

僕には、生まれつきの難聴の姉がいます。二年前までは、グレーゾーンと言われる、健常者でも、障がい者でもない境目に位置付けられていました。ところがある日を境に突然聴力が落ちてしまったのです。今では補聴器を付けていても聞こえない、聴覚障がい二種の身体障がい者です。姉は僕の声も、もう記憶でしか思い出せません。

みなさんは、音のない世界を想像したことがありますか。大好きな音楽も、大切な人の声も、生活の中にあふれる様々な音も何も聞こえないのです。それはきっと不安で怖いはずです。ある日を境に、姉の失われた聴力は二度と戻ることはありませんでした。社交的な姉から全ての音が消え去った今、姉は長年の経験から口の動きで言葉を読み取る口話と、相手の表情、周囲の様子、そしてところどころ伝わる空気の振動を組み合わせる日常会話をしています。

聴覚に支障がある人は手話を学び、視覚に支障がある人は点字を学ぶ。文字ばんを使って目の動きだけで言葉を伝える人もいます。ある機関の調べによると、そんな人たちが、日本には二千万人弱もいるのだそうです。しかし僕たちは同じ日本に住んでいるのに手話も点字も勉強しないので、暗号にしか見えません。英語も大切な言葉ですが、障がいのある方の言語は多くの人が見向きもしません。世界にばかり目を向け勉強して本当にそれでいいのでしょうか。

母はいつも「自分が社会に出たときにどう生きるのか、どう生き抜くかが大事。最後に笑えたら人生百点だ」と僕に言います。僕は僕の友達よりは、姉を通して障がいのある人の世界を身近で知ることができます。だからこそ、僕は姉の耳となり代弁者となって、健常者と障がい者の橋渡しのできる大人になりたいと思います。そして何か活動をして広めてい

きたい。いつか、この思いが一人でも多くの人へと伝わり、手話や点字を知ろう、知りたいと関心をもつきっかけとなって健常者、障がい者の区別のない世界になったら、どれだけすばらしいことだろうと思います。誰もが平等に生きる社会へと変わりますように。僕と一緒に共通言語としての手話や点字などを広めませんか。